

2023年9月26日
オール東京62環境担当者研修会

ABINC認証および認証事例紹介

～三井住友海上駿河台ビル/駿河台新館を事例として～



一般社団法人いきもの共生事業推進協議会・ABINC（エイビंक）
事務局長 安斉健雄（MS&ADインターリスク総研）



いきものとの共生は、未来への贈り物

Gift for the future

これまで私たちは、潤いのある街づくりを目指し、都市の庭づくりをすすめてきました。
その中で私たちは、花や緑が多くの人々の心をとらえ、人と人、人と自然を強く結びつけることがで





(一社) いきもの共生事業推進協議会・ABINC (エイビंक) 概要



【団体概要】

■名称 一般社団法人いきもの共生事業推進協議会
Association for Business Innovation
in harmony with Nature and Community
＜略称ABINC＞ エイビंक

■設立 2013年12月25日



【理事と監事】

会 長	森本 幸裕	(京都大学 名誉教授)
副会長	原口 真	(M S & A D インシュアランス グループホールディングス株式会社 TNFD専任SVP)
理 事	足立 直樹	(一般社団法人 企業と生物多様性イニシアティブ 理事・事務局長)
理 事	村山 顕人	(東京大学 大学院工学系研究科 准教授)
理 事	小松 裕幸	(清水建設株式会社 環境経営推進室 グリーンインフラ推進部 担当部長)
理 事	高塚 敏	(株式会社地域環境計画 代表取締役)
理 事	長澤 基一	(株式会社日本設計 ランドスケープ・ 都市基盤設計部 グループ長)
監 事	梶谷 修	(一般社団法人 日本環境アセスメント協会 顧問)
監 事	渡邊 哲朗	(税理士法人 渡辺総研)
顧 問	窪木 登志子	(窪木法律事務所 代表)



(一社) いきもの共生事業推進協議会・ABINC (エイビंक) 概要

ABINC会員 (22社 : 関連会社含む、2023年7月現在)

MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社

MS&ADインターリスク総研株式会社

株式会社環境指標生物

株式会社熊谷組

株式会社グリーンフィールド

清水建設株式会社

住友林業株式会社

住友林業緑化株式会社

西武造園株式会社

大日本ダイヤコンサルタント株式会社

大和ハウス工業株式会社

大和リース株式会社

株式会社竹中工務店

株式会社地域環境計画

東邦レオ株式会社

株式会社日本設計

特定非営利活動法人NPO birth

株式会社日比谷アメニス

株式会社ブレック研究所

東邦レオ株式会社

株式会社日本設計

特定非営利活動法人NPO birth

株式会社日比谷アメニス

株式会社ブレック研究所

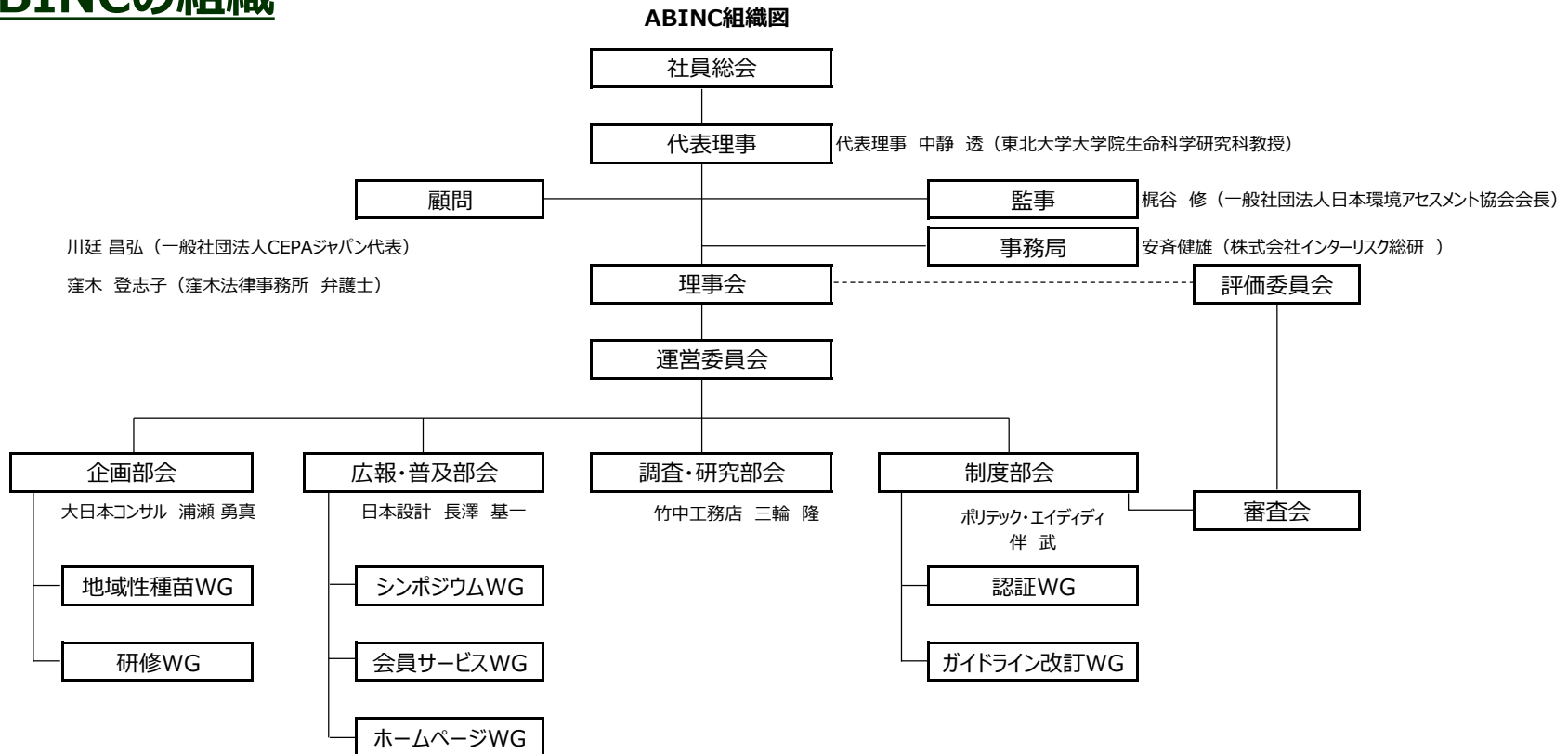
株式会社ポリテック・エイディディ

三菱地所株式会社

株式会社三菱地所設計

（一社）いきもの共生事業推進協議会・ABINC（エイビंक）概要

ABINCの組織





(一社) いきもの共生事業推進協議会・ABINC (エイビंक) 概要

ABINC認証 145件 (2023年7月現在)

認証タイプ	開始年	主な施設用途	認証件数
都市・SC（ショッピングセンター）版	2013～	オフィスビル、商業施設など	39
工場版	2014～	工場	22
集合住宅版	2014～	マンション、集合住宅	69
戸建住宅団地版	2017～	戸建て住宅団地（街区）	5
物流倉庫版	2017～	物流倉庫など	7
ADVANCE	2019～	複合街区	3
			145件

- 環境省の自然共生サイトとの連携を開始。ABINC認証システムと自然共生サイトの認証互換性を確認。
- 2023年9月環境-ABINCにて協定を締結。ABINCが自然共生サイトの「認証相当」を認定可能に。
ABINC認証の新規・更新を希望する事業所に、一体的に自然共生サイト（OECM）も認証できることになった。
- 2023年8月ゴルフ場を認証するゴルフ場版をトライアル認証実施。
- 企業林版は開発中。今後自然共生サイトとの連携を目指す。

(一社) いきもの共生事業推進協議会・ABINC (エイビंक) 概要

ABINC認証 評価項目

下欄	評価項目	得点
第1章 生物多様性に貢献する環境づくり		61
1	生物多様性に貢献する面積の大きさ	10
2	立体的な緑の量	16
3	まとまりある緑地づくり	6
4	植生を支える土壌の厚み	6
5	周辺環境との調和（生態系ネットワークの創出）	8
6	地域に根ざした植生の創出	5
7	生物多様性に貢献する高い屋上や壁面の緑地の創出	5
8	動物の生息場所や移動経路に対する配慮	5
第2章 生物多様性に配慮した緑地管理		27
9	使用する化学物質の種類・量の適切な管理	8
10	水循環への配慮（雨水の有効利用）	3
11	物質循環への配慮（発生材の有効利用）	3
12	指標生物のモニタリング	10
13	外来生物に対する対策	3
	管理者の資格	
第3章 ステークホルダーとのコミュニケーション		15
14	地域及び専門家との連携	3
15	事業所における人材の育成と配置	3
16	従業員の参画	3
17	社外向け環境教育プログラムの推進	3
18	イノベティブポイント【地域の希少種の保全（ボーナスポイント）】	3
第4章 その他の取り組み		0
	イノベティブポイント	
評価の総得点		103

※工場版 3章18項目 103点満点

第1章：生物多様性に貢献する環境づくり

1. 緑地面積率
2. 単層か、複層か
3. まとまりのある緑地
4. 土壌
5. 生態系ネットワーク
6. 在来種
7. 特殊緑化
8. いきもの誘致の施設

第2章：生物多様性に配慮した緑地管理

9. 化学薬品
10. 雨水利用（地下水涵養）
11. 発生材の利用
12. モニタリング
13. 外来種対策

第3章：ステークホルダーとのコミュニケーション

14. 地域、専門家との連携
15. 人材育成
16. 従業員参画
17. 環境教育プログラム

第4章：その他の取組

18. イノベティブポイント

都市再開発・SC（ショッピングセンター）版 東京ポートシティ竹芝



名称 東京ポートシティ竹芝 オフィスタワー

申請者 株式会社アルベログランデ

住所 東京都港区

都心にありながらも旧芝離宮恩賜庭園などの豊かな自然に取り囲まれている立地特性を生かし、「竹芝新八景」というテーマのもと、生物多様性保全に関する様々な取組みを展開しています。立体的に積層する緑化されたテラスは、水田や菜園、ミツバチの巣箱等が設置され、環境教育・地域交流・情報発信の場となります。

工場版 東京ポートシティ竹芝



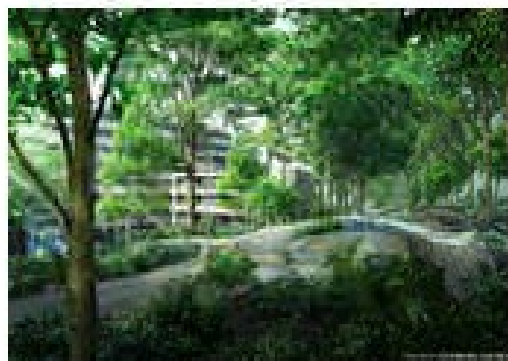
名称 ENEOS株式会社根岸製油所 中央緑地(工場版)

申請者 ENEOS株式会社根岸製油所

住所 神奈川県横浜市

「中央緑地」は、3箇所のビオトープ池がある幅100m延長800mに及ぶ大規模な緑地です。近年、三溪園など周辺の豊かな自然と連繋し、生物多様性に配慮した緑地を目指す取り組みを行っています。カワセミが訪れる水辺、アオスジアゲハが舞う草地など多様な環境を整備し、「工場の中の里山づくり」に取り組んでいます。

集合住宅版 プラウド国分寺



名称 プラウド国分寺(集合住宅版)

申請者 野村不動産

住所 東京都国分寺市

JR国分寺駅から徒歩5分、125戸の集合住宅。国分寺崖線の既存緑地をできる限り残し、地域生態系の保全に努めています。

ADVANCE (複合街区) HARUMI FLAG



名称 晴海五丁目西地区市街地再開発事業 (HARUMI FLAG)

申請者 三井不動産レジデンシャル、NTT都市開発、日鉄興和不動産、住友商事、住友不動産、大和ハウス工業、東急不動産、東京建物、野村不動産、三菱地所レジデンス、三井不動産、東京都

住所 東京都中央区晴海五丁目501番他

HARUMI FLAGは13.3haの広大な土地に、分譲・賃貸・商業施設を含めた24棟を建築し、5,632戸の住宅・保育施設・介護住宅なども整備し、人口12,000人となる街づくり計画です。海と緑の共生、生物多様性に配慮した環境創造型プロジェクトとして新たな東京の顔となる未来に誇れる街を目指します。

計画の目的

分散していた本社機能を、駿河台地区に統合する

全体コンセプト

竣工当時のコンセプト

「地域に溶け込んで、地域の皆さんと一緒に栄える」
「近隣の価値向上に貢献する」



近隣住民や周辺環境との
調和を十分に考慮

再開発におけるコンセプト

1. 業務、交流機能の整備による地域の活性化
2. 親しみを育む“**緑の大地**”の形成
 - ① 緑のトップランナーを目指す
 - ② エコロジカルネットワークの形成
 - ③ 緑陰にあふれる、良好な街並み景観の保全・拡充
3. 環境負荷の低減
4. 安全で快適なまちづくりの推進
5. 歩行者の回遊性の向上



三井住友海上駿河台ビル

- 旧大正海上火災保険の本社ビルとして**1984年3月に竣工**
- 敷地面積 11,970㎡

駿河台新館

- 三井住友海上火災保険の本社ビルとして**2012年2月に竣工**
- 敷地面積 5,417㎡

面積
17,387㎡

緑地面積合計
7,090㎡

全体の緑地率
40.8%

第1章：生物多様性に貢献する環境づくり

1. 緑地面積率
2. 単層か、複層か
3. まとまりのある緑地
4. 土壌
5. 生態系ネットワーク
6. 在来種
7. 特殊緑化
8. いきもの誘致の施設



屋上庭園

ABINC認証事例 三井住友海上駿河台ビル・駿河台新館



街路樹の複列植栽



階層構造の創出



在来種の植栽



誘引する動物と
解説用QRコード
を記した樹名板

(437㎡の大規模壁面緑化)



壁面緑化への挑戦



レインガーデン



(粗放管理エリア)

バードサンクチュアリ

(屋上ビオトープ)

緑地の量・質、在来種、壁面緑化

壁面緑化



壁面緑化



屋上緑化



在来種植栽



駿河台新館



三井住友海上駿河台ビル

環境教育 コミュニケーション



第1章：生物多様性に貢献する環境づくり

1. 緑地面積率
2. 単層か、複層か
3. まとまりのある緑地
4. 土壌
5. 生態系ネットワーク
6. 在来種
7. 特殊緑化
8. いきもの誘致の施設

第2章：生物多様性に配慮した緑地管理

9. 化学薬品
10. 雨水利用（地下水涵養）
11. 発生材の利用
12. モニタリング
13. 外来種対策

第3章：ステークホルダーとのコミュニケーション

14. 地域、専門家との連携
15. 人材育成
16. 従業員参画
17. 環境教育プログラム
18. イノベティブポイント

エコロジカルネットワーク

- 近隣の緑地間を結ぶ中継地とし、都市化によって分断された**生態系のネットワークを構築**。



誘致目標種（8種のうち5種が緑地改修後に飛来）

第1章：生物多様性に貢献する環境づくり

1. 緑地面積率
2. 単層か、複層か
3. まとまりのある緑地
4. 土壌
5. 生態系ネットワーク
6. 在来種
7. 特殊緑化
8. いきもの誘致の施設

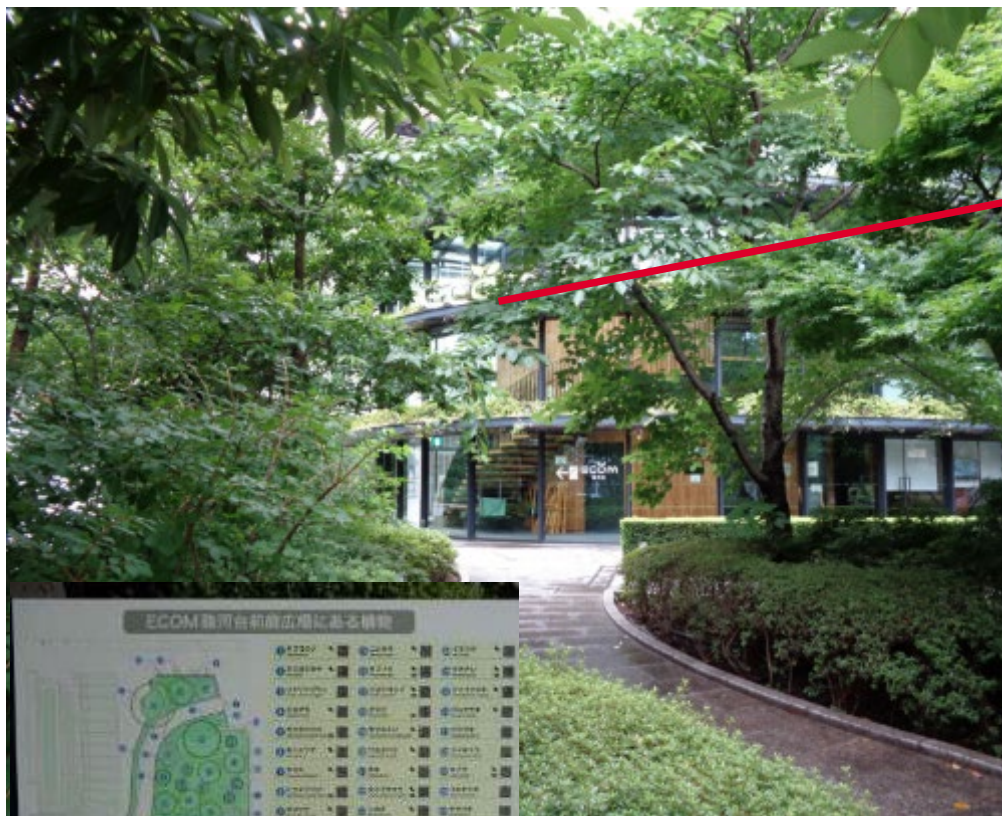
第2章：生物多様性に配慮した緑地管理

9. 化学薬品
10. 雨水利用（地下水涵養）
11. 発生材の利用
12. モニタリング
13. 外来種対策

第3章：ステークホルダーとのコミュニケーション

14. 地域、専門家との連携
15. 人材育成
16. 従業員参画
17. 環境教育プログラム
18. イノベティブポイント

在来種



第1章：生物多様性に貢献する環境づくり

1. 緑地面積率
2. 単層か、複層か
3. まとまりのある緑地
4. 土壌
5. 生態系ネットワーク
6. 在来種
7. 特殊緑化
8. いきもの誘致の施設

第2章：生物多様性に配慮した緑地管理

9. 化学薬品
10. 雨水利用（地下水涵養）
11. 発生材の利用
12. モニタリング
13. 外来種対策

第3章：ステークホルダーとのコミュニケーション

14. 地域、専門家との連携
15. 人材育成
16. 従業員参画
17. 環境教育プログラム
18. イノベティブポイント

いきもの誘致の施設、モニタリング



- 敷地内3カ所にモニタリングカメラを設置
- 現在は法政大学人間環境学部高田ゼミを講師に、近隣住民や従業員を対象に月に1回の野鳥のモニタリング「野鳥観察会」を実施

第1章：生物多様性に貢献する環境づくり

1. 緑地面積率
2. 単層か、複層か
3. まとまりのある緑地
4. 土壌
5. 生態系ネットワーク
6. 在来種
7. 特殊緑化
8. いきもの誘致の施設

第2章：生物多様性に配慮した緑地管理

9. 化学薬品
10. 雨水利用（地下水涵養）
11. 発生材の利用
12. モニタリング
13. 外来種対策

第3章：ステークホルダーとのコミュニケーション

14. 地域、専門家との連携
15. 人材育成
16. 従業員参画
17. 環境教育プログラム
18. イノベティブポイント

モニタリング

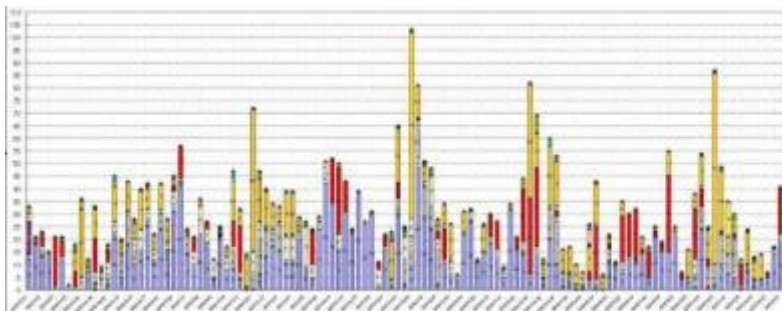
野鳥観察会 (2004年～)



大学生による説明



シジュウカラの巣箱を設置



蓄積されたデータを緑地設計に活用

鳥 (チョウの専門調査 (2012年～/月1回))



クロアゲハ



ムラサキシミ



アサギマダラ



サトキマダラヒカゲ

※2016年からは鳥のみ調査

飛来・営巣している野鳥の例



営巣場所



ヒメアマツバメのコロニー



保護されたアオバズク



シメ



ツグミ



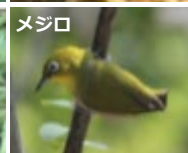
ウグイス



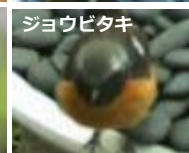
シジュウカラ



ヤマガタ



メジロ



ジョウビタキ



シロハラ

※写真は駿河台緑地内で撮影

生物多様性緑化のための樹木・植栽選定基準

- ① 環境コミュニケーションおよびエコロジカルネットワークの拠点としての機能を、高いレベルで共存させる。
- ② 緑のトップランナーとしての駿河台ビルの歴史を継承する。
- ③ 樹木（高木、中木、低木）は、**薬剤による病害虫防除が不要な樹種、アレルギーフリーの樹種、自生種、野鳥が採餌・営巣のために好む樹種**、とする。
- ④ 宿根草・花木は、昆虫が花粉媒介を行うものを**初春から出来る限り長期間蜜源が持続するように開花時期を連続させる**。
- ⑤ 既存樹・宿根草で③または④の条件に合うものは、3Rの観点から、積極的に新館等に移植し再利用（リユース）する。
- ⑥ 屋上庭園等で過剰に占有している樹種は伐採し、新規樹木のための場所を空け、3Rの観点から適切に処理する。
- ⑦ 新規に植栽する樹木は、場所に応じて小さい苗を長期的に育成することを考え、初期コストを低減する。

在来種の上にこだわらず（在来種を優先しながら）、誘致目標種それぞれの生活史を考慮して植栽種を選定

第1章：生物多様性に貢献する環境づくり

1. 緑地面積率
2. 単層か、複層か
3. まとまりのある緑地
4. 土壌
5. 生態系ネットワーク
6. 在来種
7. 特殊緑化
8. いきもの誘致の施設

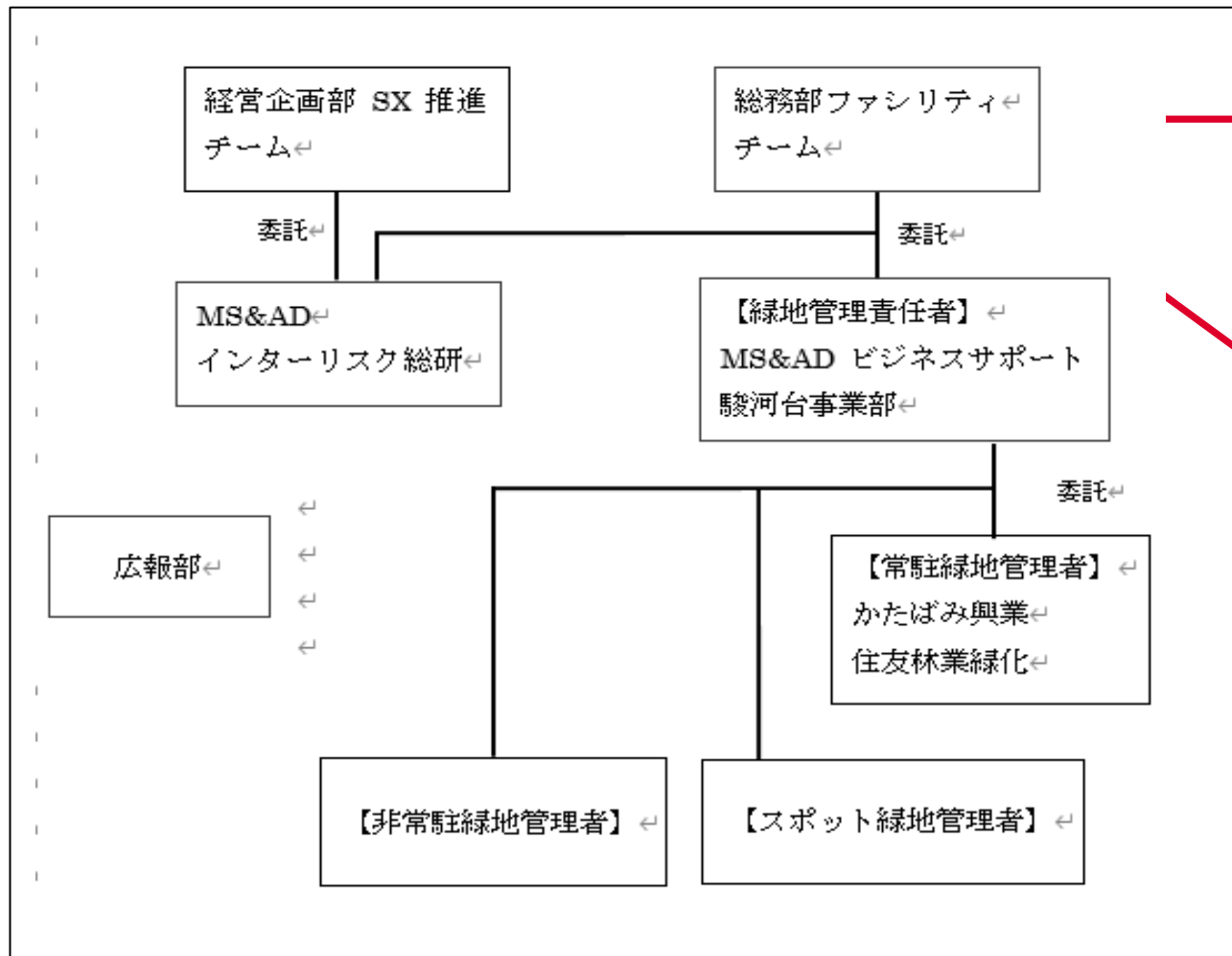
第2章：生物多様性に配慮した緑地管理

9. 化学薬品
10. 雨水利用（地下水涵養）
11. 発生材の利用
12. モニタリング
13. 外来種対策

第3章：ステークホルダーとのコミュニケーション

14. 地域、専門家との連携
15. 人材育成
16. 従業員参画
17. 環境教育プログラム
18. イノベティブポイント

緑地マネジメントの体制（例）



第2章:生物多様性に配慮した緑地管理

- 9. 化学薬品
- 10. 雨水利用(地下水涵養)
- 11. 発生材の利用
- 12. モニタリング
- 13. 外来種対策

第3章:ステークホルダーとのコミュニケーション

- 14. 地域、専門家との連携
- 15. 人材育成
- 16. 従業員参画
- 17. 環境教育プログラム
- 18. イノベティブポイント



第1章：生物多様性に貢献する環境づくり

1. 緑地面積率
2. 単層か、複層か
3. まとまりのある緑地
4. 土壌
5. 生態系ネットワーク
6. 在来種
7. 特殊緑化
8. いきもの誘致の施設

第2章：生物多様性に配慮した緑地管理

9. 化学薬品
10. 雨水利用（地下水涵養）
11. 発生材の利用
12. モニタリング
13. 外来種対策

第3章：ステークホルダーとのコミュニケーション

14. 地域、専門家との連携
15. 人材育成
16. 従業員参画
17. 環境教育プログラム
18. イノベティブポイント

地域との環境コミュニケーション

コミュニケーションスペース
ECOM駿河台を拠点とした活動を展開



屋上菜園の貸し出し
(社員への貸し出し：2003年～
社外への貸し出し：2013年～)



環境コミュニケーションスペース「ECOM駿河台」(2012年～)



多様な公開イベントの開催



屋上庭園の一般開放(2013年～)



屋上への田んぼ設置
(2013年～)

環境コミュニケーションスペース ECOM (エコム) 駿河台



屋上菜園

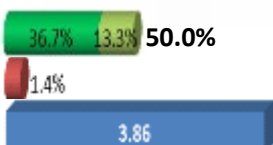


- 25区画の菜園を、近隣住民や社員の希望者に貸し出している。(定期2年)

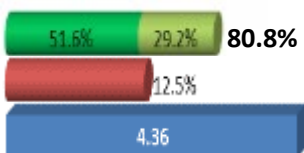
イノベティブポイント

在来種比率と害虫管理工数（江戸のみどり※樹木台帳・管理日報の分析結果）

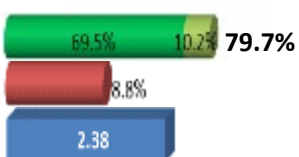
ECOM前庭



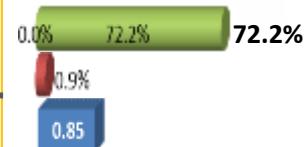
屋上庭園



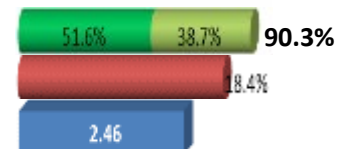
本館西側



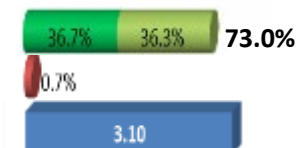
新館外周



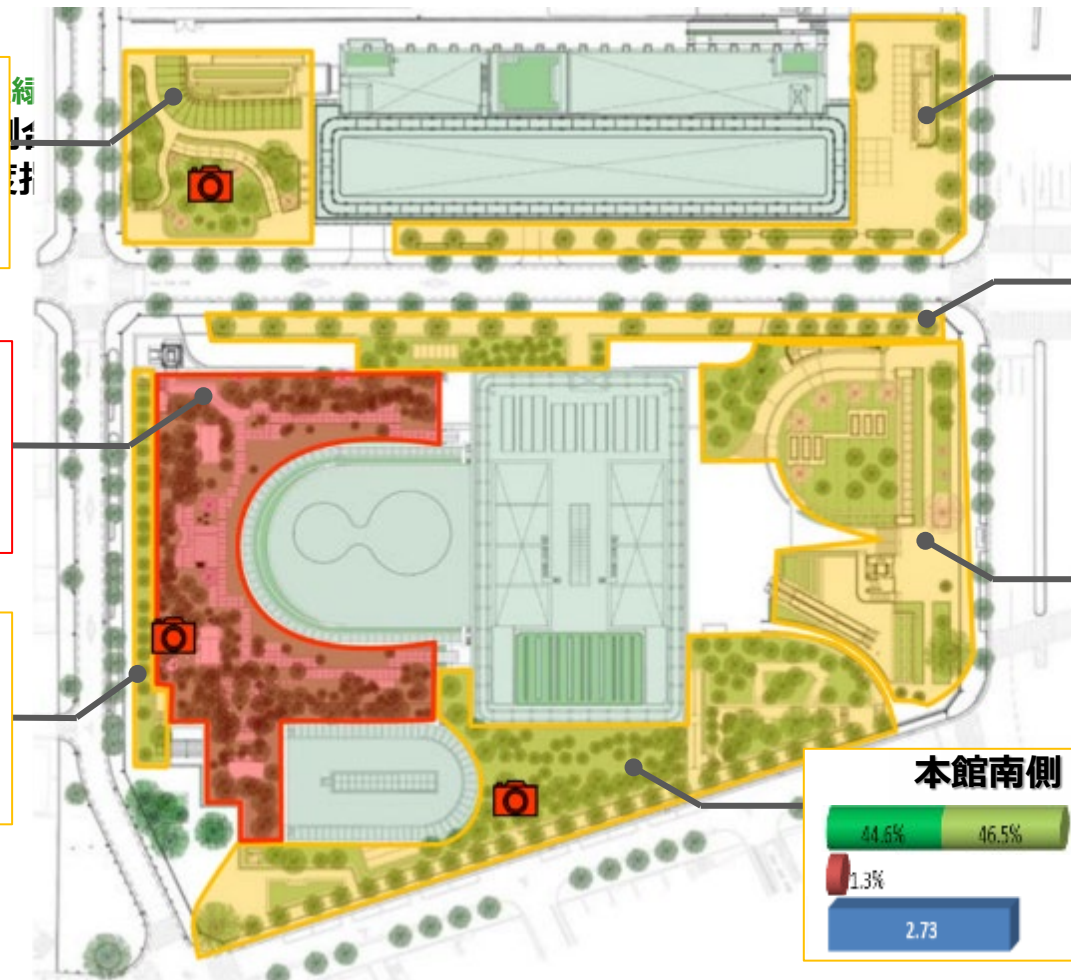
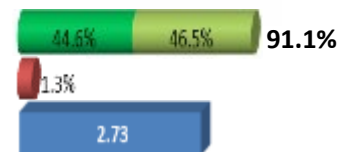
本館北側



本館前庭



本館南側



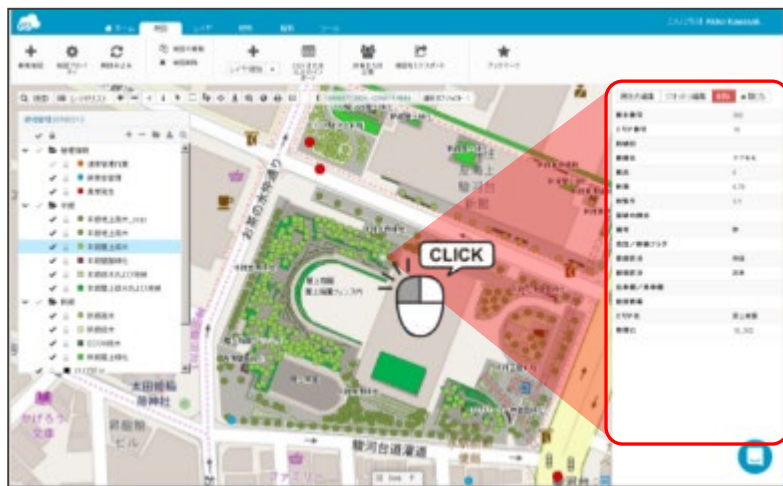
 モニタリングカメラ

※をもとに分析

イノベティブポイント

樹木管理システム (2011年～)

植栽図面上に各種の管理情報を集約



ID	樹名	所在地	管理状況	備考
101	桜	101	管理中	
102	桜	102	管理中	
103	桜	103	管理中	
104	桜	104	管理中	
105	桜	105	管理中	
106	桜	106	管理中	
107	桜	107	管理中	
108	桜	108	管理中	
109	桜	109	管理中	
110	桜	110	管理中	

ご清聴ありがとうございました



一般社団法人いきもの共生事業推進協議会・ABINC（エイビंक）
事務局長 安斉健雄（MS&ADインターリスク総研）